

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202494		
法人名	特定非営利活動法人シンセア		
事業所名	グループホームたみの里-清水(1階、2階合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区吉川129-4		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2274202494-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&amp;jiyosvoCd=2274202494-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念「生き生き生きる」を実践するべく日頃より入居者様に安心で安全な空間を提供し、より充実した日々をお過ごし頂ける様、レクリエーションや体操や日常生活のお手伝いをして頂いて居ります。又、月に1回は外出イベントを企画し各地の観光スポットに出かけて気分転換して居ります。施設周辺の環境も大変良く、目の前には茶畑が、2Fからは霊峰富士を拝むことが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

お茶畑に隣接し、私鉄の駅やショッピングセンターにも近い静かな住宅地に立地しています。開設から6年が経過し、「生き生き生きる」という理念のもと、自分らしい落ち着いた生活リズムで過ごせるサービスをおこなっています。例えば「気分転換」として月に1回は外出の企画をおこない、県東部、西部までも出かけていて、歩行困難な利用者にも十分な付添いをおこなっています。さらに「型にあてはめない、自由な発想」をもつことで利用者、職員の個性や特性を尊重しています。あえて1日のプログラムを固定せず、利用者ごとに趣味の時間をすごしてもらったり、できる作業や役割をおこなうなどして利用者ごとの能力を高めています。また、法人本部で「研修室」の部署を設置したため、OJTも進み職員のスキルアップも進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践する為、毎朝の朝礼や毎月の定例会以外にも共有できる様取り組んでいる。	玄関、エレベータ、事務所に理念が掲示されています。「生き生き生きる」という理念にもとづいて、「気分転換」や「骨折事故の防止」など利用者が生活しやすいように実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	前年同様、施設行事にも招待したり、地域行事に積極的に関わる様に活動してる。	地域の人からの紹介で、夏祭りや防災訓練、どんと焼きなどに参加できています。職員の紹介でボランティアの訪問もおこなわれています。ボランティア活動では季節ごとに、イベントの補助や演芸の披露がおこなわれています。	小学生の福祉体験が引率の都合で休止されているため、子どもとの交流の機会が増えることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや小・中学校生の見学や教育の受け入れをしている。又、地域包括のお力添えを頂きながら広めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度全利用者ご家族、行政、地域包括に案内状を出し会議を開催している。又他事業所連携を深めるべく同様に案内状を出し、出席頂いたり双方の会議に参加している。	運営推進会議には他事業所のグループホームの管理者も参加しています。民生委員や地域包括職員、家族らの参加もあり、転倒事故の再発防止策についての話し合いなど、活発に議論されている様子が議事録からも確認されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者との連携は以前より増して蜜にしており、問い合わせ時以外にも出向き情報交換を図っている。	介護相談員や地域包括支援センターの職員が毎回、運営推進会議に参加しています。介護相談員の訪問により、第三者の視点から運営上気づきにくいアドバイスを受けることもあります。地域包括支援センターからの依頼もあって「有度グループホーム連絡会」第1回目の発起人として貢献しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束廃止に向けた研修に参加したり定例会や申し送り時、その他法人全体の方針として、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、自由に館内を移動できます。行動障害により落ち着きのない利用者にも役割や作業を依頼することで、エスケープを防いでいます。今後は職員を外部研修にも積極的に参加させる予定があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何をもちて虐待になるのか全職員共通見解を持てる様、定例会や申し送り時に確認し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政或いは地域包括と相談しながら活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用い、時間をかけ説明し、双方納得した上で締結する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々にお話を伺える様にし、内容によっては直ぐに全職員に周知させ改善に結び付け実践している。	運営推進会議の議事録と案内を共に家族に送付しています。家族からは「不快な足音を立てる職員」に対して指摘があったり、「職員から事務的な発言があった」等の意見が上がり、接遇について改善する機会になったこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見には常に耳を傾け意見や要望或いは不満を拾い上げ、適正運営に反映させている。	「話し合うプロセスが大事」として職員が自ら考え、発言できるようにしています。職員同士のチームワークが良好で、運営に対する意見があれば管理者に相談したうえで定例会で課題を話し合うなど、互いに向上をめざしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年度末には勤怠実績或いは取り組み姿勢を評価し、優秀者は表彰するなどしやりがいを高められる様支援している。又キャリアパスの導入を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部主催の内部研修や外部の研修を活用している。又、必要に応じ同行勤務(OJT)を通じ、個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度地域包括館内のGH管理者との情報交換できる連絡会の参加、双方の運営推進会議以外でもネットワークの形成に向けて取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談(必要に応じ複数回)し、アセスメントを作成しニーズを伺い把握し、安心して生活して頂く様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	No.15同様、必要に応じ複数回お話させて頂き、ご要望等を伺う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員一丸となり、その方にとって必要な支援は何か、常に考え協議し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム本来の趣旨に沿い家庭の延長線上であると捉え、職員は入居者様がその人らしく生活して頂ける様サポート出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月お手紙で近況を報告したり面会時お伝えさせて頂き、関係を築き入居者様との絆作りのお手伝いをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れてしまわぬ様ご家族様等のお力を借りながら関係の維持に努めている。	歯科通院など馴染みを尊重し、家族の協力を得たり事業所に対応することで関係継続の支援をおこなっています。家族宛てに毎月報告の手紙を郵送したり、子ども用のスリッパも備え家族ぐるみで面会できるようになっています。その結果もあり、利用者の約7割の家族が毎月面会に訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、仲良く生き生きと生活して頂く為に、積極的な関わりと目配り気配りで支援させて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人位面会させて頂いたり、ご家族様に対してもご相談に乗ったりして、この施設が皆様の生活の一部になれる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりおひとりの思いや願いを抽出できるように全職員が常に考え行動する様努めている。	居室担当を設けていて、普段から利用者の希望や意向の把握に努めています。今年度から職員全員に「アセスメントシート」を配布し、担当者がそれぞれ利用者の変化に応じてアセスメントを再作成する取り組みを始めました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談(相談受付時)やアセスメント作成、又、サービス利用後も適宜面談等を通じ情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様毎に担当者を設け、責任もって日頃の観察や月に1度のユニット会議ではカンファレンスを実施し、現状と問題点把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで出されたニーズや問題点、ご家族様からの要望等を鑑みご本人にとって最適なケアプランになるよう努めている。	「経過記録」から身体状況など課題となる記録を抽出して、定例会のカンファレンスで提出しています。ユニットごとに全職員が参加するカンファレンス結果を軸に、課題を明らかにして目標を作成しています。計画作成にあたり「安全に過ごす」ことを特に留意しています。	モニタリングについてのシート作成がすすみ、職員の計画作成につながる役割が増すことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録或いは申し送りノートを活用し全職員と共有し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おひとりおひとりの思いをできる限り叶えられるよう、柔軟に対応し個別ケアの提供に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、外出したり必要に応じ、個別で買い物に行ったりとその方らしい生活が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が、ご納得された上で、必要な医療が受けられるよう支援している。	「入院を伴わない場合」は原則としてすべて職員が受診に同行しています。協力医による往診が月1回おこなわれ、体調不良時は随時受診しています。今年度は急変時に備えて連絡網を実践的に改良し、ショートメール等を活用することで職員間の連絡体制が強化されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録を活用したり、直接相談するなどし情報交換・情報共有を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には頻回な面会と担当者との情報交換を密にし、又、医師の説明時には立ち会う等をし、早期に退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思い、ご家族様の思いをできる限り尊重できるよう、面談させて頂いている。但し、施設にできる事に限りがある為、十分に説明しながら支援させて頂いている。	入所の際に、事業所としてできる範囲においての看取りや、終末期の方針についての説明をおこなっています。急変時に備え、協力医とは24時間の連絡体制が確立されています。今後は職員に対するメンタル面の確立が課題となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には慌てる事なく対応出来るよう研修を通じて職員ひとりひとり対応出来る様にしていける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いでの防災訓練等を通じて避難方法等は概ね習得出来てきていると感じられるが、地域との協力体制はまだ十分とは言えない。	消防署の協力を得て防災訓練を年2回開催しています。今年度は初めて、車いすで移動している利用者に対して階段を使用しての避難をおこないました。また、連絡体制を見直し、避難訓練の開催とは別にメールで模擬連絡の訓練もおこないました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりおひとりの性格だったり個性を尊重し、その方らしい生活が送れるよう支援している。	利用者の近くで業務連絡を行う際には、個人が特定されないように部屋番号を使って会話しています。さらにおむつ交換の際には、タオルで下腹部を覆うなどのルールを決めています。利用者の呼称については「～さん」を原則としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おひとりおひとりの思いだったり、願いを尊重出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で生活するのと同じようリズム・ペースで暮らし、ご希望を伺いながら対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	装飾品であったり、服装など、その方が好きなものを選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理(特に刃物)に関してはケガ等の危険があるため最小限となるが後片付けに関しては毎回お手伝いをして頂いている。今後は買い物等の機会を増やしていきたいと感じている。	利用者からの提案も聞き取り、調理担当の職員があらかじめメニューを作成しています。食事の内容を写真撮影して、運営推進会議で報告したり法人内で話し合っています。イベントの際には、ノンアルコールビールを出して飲酒気分を味わうこともあります。食後は利用者が下膳などを手伝っていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取はチェック表を活用し状態・状況を確認し、変化に早く気づくよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアはご本人の磨いたあと、確認し時にお手伝いをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、おひとりおひとりの排泄リズムを把握し、声掛け・誘導を行い、失禁減少に努めている。	排泄チェック表に排泄の有無を記入し、経過記録に排泄の状態を記入しています。排便の有無については「(お腹)どう？」など羞恥心に配慮し、さりげなく質問して聞き取っています。紙おむつや紙パットの使用については吸収量も検討し、コストパフォーマンスを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの提供や、活動・運動を是正する事により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を活用したり、入りたい時に入れるように配慮している。	入浴は3日に1回を原則としています。浴槽は広く、踏み台やシャワーチェアなどの福祉用具を使用することで、残存能力の活用につながっています。入浴剤は常に2種類以上から選択できるようになっていて、湯はかけ流しにして清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとりの生活リズム・習慣を尊重し、対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量は問題ないと感じられるが目的や薬剤変更時の内容については認識がまだ十分とは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたい事であったり、出来ることを把握し提供し、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出イベントや、希望される方には毎日の散歩等にて対応している。	天候がよければ、近所の神社まで約20分の道のりを散歩しています。途中、近所の人とあいさつしたり、飼っている犬をあやしたりしながら散歩を楽しんでいます。ウッドデッキで外気浴を楽しむ利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが買い物等の要望があれば、立て替えて支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に季節感のある装飾だったり手作りのカレンダーを掲示している。又、エアコンや衣類等で快適な室温温度になるよう対応している。	共用空間には畳のコーナーが備えられていて、腰かけたり、一時的な物置として重宝しています。1階では模造紙で作成した大きなカレンダーが掲示されています。朝、職員と利用者が一緒に共用空間を掃除しています。また、毎月10日を「掃除の日」として、エアコンやカーテンの清掃をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを置いたりし、語らう場所であったり、休憩できる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品や、思い入れのある馴染みの物を持ち込んで頂く事で居心地の良い場所になれるよう工夫している。	午前中の利用者が不在にしている間は窓を開けて新鮮な外気を取り入れています。居室には鉢植えの花が飾られたり、趣味の写真が飾られるなど利用者の嗜好にあわせたレイアウトが視認されました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最小限の支援で、より自立した生活が続けられるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生き生きる」を実践する為、毎朝の朝礼や毎月の定例会以外にも共有できる様取り組んでいる。	玄関、エレベータ、事務所に理念が掲示されています。「生き生き生きる」という理念にもとづいて、「気分転換」や「骨折事故の防止」など利用者が生活しやすいように実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	前年同様、施設行事にも招待したり、地域行事に積極的に関わる様に活動している。	地域の人からの紹介で、夏祭りや防災訓練、どんと焼きなどに参加できています。職員の紹介でボランティアの訪問もおこなわれています。ボランティア活動では季節ごとに、イベントの補助や演芸の披露がおこなわれています。	小学生の福祉体験が引率の都合で休止されているため、子どもとの交流の機会が増えることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの受け入れや小・中学校生の見学や教育の受け入れをしている。又、地域包括のお力添えを頂きながら広めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度全利用者ご家族、行政、地域包括に案内状を出し会議を開催している。又他事業所連携を深めるべく同様に案内状を出し、出席頂いたり双方の会議に参加している。	運営推進会議には他事業所のグループホームの管理者も参加しています。民生委員や地域包括職員、家族らの参加もあり、転倒事故の再発防止策についての話し合いなど、活発に議論されている様子が議事録からも確認されました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者との連携は以前より増して密にしておき、問い合わせ時以外にも出向き情報交換を図っている。	介護相談員や地域包括支援センターの職員が毎回、運営推進会議に参加しています。介護相談員の訪問により、第三者の視点から運営上気づきにくいアドバイスを受けることもあります。地域包括支援センターからの依頼もあって「有度グループホーム連絡会」第1回目の発起人として貢献しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束廃止に向けた研修に参加したり定例会や申し送り時、その他法人全体の方針として、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	日中は施錠せず、自由に館内を移動できます。行動障害により落ち着きのない利用者にも役割や作業を依頼することで、エスケープを防いでいます。今後は職員を外部研修にも積極的に参加させる予定があります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何をもって虐待になるのか全職員共通見解を持てる様、定例会や申し送り時に確認し合っている。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政或いは地域包括と相談しながら活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用い、時間をかけ説明し、双方納得した上で締結する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々にお話を伺える様にし、内容によっては直ぐに全職員に周知させ改善に結び付け実践している。	運営推進会議の議事録と案内を共に家族に送付しています。家族からは「不快な足音を立てる職員」に対して指摘があったり、「職員から事務的な発言があった」等の意見が上がり、接遇について改善する機会になったこともあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見には常に耳を傾け意見や要望或いは不満を拾い上げ、適正運営に反映させている。	「話し合うプロセスが大事」として職員が自ら考え、発言できるようにしています。職員同士のチームワークが良好で、運営に対する意見があれば管理者に相談したうえで定例会で課題を話し合うなど、互いに向上をめざしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年度末には勤怠実績或いは取り組み姿勢を評価し、優秀者は表彰するなどしやりがいを高められる様支援している。又キャリアパスの導入を検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部主催の内部研修や外部の研修を活用している。又、必要に応じ同行勤務(OJT)を通じ、個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	有度地域包括館内のGH管理者との情報交換できる連絡会の参加、双方の運営推進会議以外でもネットワークの形成に向けて取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談(必要に応じ複数回)し、アセスメントを作成しニーズを伺い把握し、安心して生活して頂く様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	No.15同様、必要に応じ複数回お話させて頂き、ご要望等を伺う様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	全職員一丸となり、その方にとって必要な支援は何か、常に考え協議し提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム本来の趣旨に沿い家庭の延長線上であると捉え、職員は入居者様がその人らしく生活して頂ける様サポート出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には毎月お手紙で近況を報告したり面会時お伝えさせて頂き、関係を築き入居者様との絆作りのお手伝いをさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れてしまわぬ様ご家族様等のお力を借りながら関係の維持に努めている。	困料通院など馴染みを尊重し、家族の協力を得たり事業所に対応することで関係継続の支援をおこなっています。家族宛てに毎月報告の手紙を郵送したり、子ども用のスリッパも備え家族ぐのみで面会できるようになっています。その結果もあり、利用者の約7割の家族が毎月面会に訪れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、仲良く生き生きと生活して頂く為に、積極的な関わりと目配り気配りで支援させて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご本人位面会させて頂いたり、ご家族様に対してもご相談に乗ったりして、この施設が皆様の生活の一部になれる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おひとりおひとりの思いや願いを抽出できるように全職員が常に考え行動する様努めている。	居室担当を設けていて、普段から利用者の希望や意向の把握に努めています。今年度から職員全員に「アセスメントシート」を配布し、担当者がそれぞれ利用者の変化に応じてアセスメントを再作成する取り組みを始めました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談(相談受付時)やアセスメント作成、又、サービス利用後も適宜面談等を通じ情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様毎に担当者を設け、責任もって日頃の観察や月に1度のユニット会議ではカンファレンスを実施し、現状と問題点把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで出されたニーズや問題点、ご家族様からの要望等を鑑みご本人にとって最適なケアプランになるよう努めている。	「経過記録」から身体状況など課題となる記録を抽出して、定例会のカンファレンスで提出しています。ユニットごとに全職員が参加するカンファレンス結果を軸に、課題を明らかにして目標を作成しています。計画作成にあたり「安全に過ごす」ことを特に留意しています。	モニタリングについてのシート作成がすすみ、職員の計画作成につながる役割が増すことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録或いは申し送りノートを活用し全職員と共有し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おひとりおひとりの思いをできる限り叶えられるよう、柔軟に対応し個別ケアの提供に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、外出したり必要に応じ、個別で買い物に行ったりとその方らしい生活が出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が、ご納得された上で、必要な医療が受けられるよう支援している。	「入院を伴わない場合」は原則としてすべて職員が受診に同行しています。協力医による往診が月1回おこなわれ、体調不良時は随時受診しています。今年度は急変時に備えて連絡網を実践的に改良し、ショートメール等を活用することで職員間の連絡体制が強化されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録を活用したり、直接相談するなどし情報交換・情報共有を心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には頻回な面会と担当者との情報交換を密にし、又、医師の説明時には立ち会う等をし、早期に退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の思い、ご家族様の思いをできる限り尊重できるよう、面談させて頂いている。但し、施設にできる事に限りがある為、十分に説明しながら支援させて頂いている。	入所の際に、事業所としてできる範囲においての看取りや、終末期の方針についての説明をおこなっています。急変時に備え、協力医とは24時間の連絡体制が確立されています。今後は職員に対するメンタル面の確立が課題となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等には慌てる事なく対応出来るよう研修を通じて職員ひとりひとり対応出来る様にしていける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いでの防災訓練等を通じて避難方法等は概ね習得出来てきていると感じられるが、地域との協力体制はまだ十分とは言えない。	消防署の協力を得て防災訓練を年2回開催しています。今年度は初めて、車いすで移動している利用者に対して階段を使用しての避難をおこないました。また、連絡体制を見直し、避難訓練の開催とは別にメールで模擬連絡の訓練もおこないました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりおひとりの性格だったり個性を尊重し、その方らしい生活が送れるよう支援している。	利用者の近くで業務連絡を行う際には、個人が特定されないように部屋番号を使って会話しています。さらにおむつ交換の際には、タオルで下腹部を覆うなどのルールを決めています。利用者の呼称については「～さん」を原則としています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おひとりおひとりの思いだったり、願いを尊重出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室で生活するのと同じようリズム・ペースで暮らし、ご希望を伺いながら対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	装飾品であったり、服装など、その方が好きなものを選べるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理(特に刃物)に関してはケガ等の危険があるため最小限となるが後片付けに関しては毎回お手伝いをして頂いている。今後は買い物等の機会を増やしていきたいと感じている。	利用者からの提案も聞き取り、調理担当の職員があらかじめメニューを作成しています。食事の内容を写真撮影して、運営推進会議で報告したり法人内で話し合っています。イベントの際には、ノンアルコールビールを出して飲酒気分を味わうこともあります。食後は利用者が下膳などを手伝っていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取・水分摂取はチェック表を活用し状態・状況を確認し、変化に早く気づくよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の口腔ケアはご本人の磨いたあと、確認し時にお手伝いをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、おひとりおひとりの排泄リズムを把握し、声掛け・誘導を行い、失禁減少に努めている。	排泄チェック表に排泄の有無を記入し、経過記録に排泄の状態を記入しています。排便の有無については「(お腹)どう？」など羞恥心に配慮し、さりげなく質問して聞き取っています。紙おむつや紙パットの使用については吸収量も検討し、コストパフォーマンスを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルトの提供や、活動・運動を是正する事により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤を活用したり、入りたい時に入れるように配慮している。	入浴は3日に1回を原則としています。浴槽は広く、踏み台やシャワーチェアなどの福祉用具を使用することで、残存能力の活用につながっています。入浴剤は常に2種類以上から選択できるようにになっていて、湯はかけ流しにして清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	おひとりおひとりの生活リズム・習慣を尊重し、対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量は問題ないと感じられるが目的や薬剤変更時の内容については認識がまだ十分とは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やりたい事であったり、出来ることを把握し提供し、楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出イベントや、希望される方には毎日の散歩等にて対応している。	天候がよければ、近所の神社まで約20分の道のりを散歩しています。途中、近所の人とあいさつしたり、飼っている犬をあやしたりしながら散歩を楽しんでいます。ウッドデッキで外気浴を楽しむ利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人の方針で現金は預かっていないが買い物等の要望があれば、立て替えて支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	所々に季節感のある装飾だったり手作りのカレンダーを掲示している。又、エアコンや衣類等で快適な室温温度になるよう対応している。	共用空間には畳のコーナーが備えられていて、腰かけたり、一時的な物置として重宝しています。1階では模造紙で作成した大きなカレンダーが掲示されています。朝、職員と利用者が一緒に共用空間を掃除しています。また、毎月10日を「掃除の日」として、エアコンやカーテンの清掃をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファを置いたりし、語らう場所であったり、休息できる場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品や、思い入れのある馴染みの物を持ち込んで頂く事で居心地の良い場所になれるよう工夫している。	午前中の利用者が不在にしている間は窓を開けて新鮮な外気を取り入れています。居室には鉢植えの花が飾られたり、趣味の写真が飾られるなど利用者の嗜好にあわせたレイアウトが視認されました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最小限の支援で、より自立した生活が続けられるよう努めている。		